

慶応三年八月十九日より慶応三年八月廿三日まで

(七言絶句は旧漢字が多いため解説を見合わせる)

P8310709 right

明日生田明神祭禮に付、今日より三日の間御場所休の儀、村方より願出る、村中市場相立

繁盛の趣、御雇英人

シール乗組長鯨丸□所出来、大坂地迄乗入れたく直に当港へ入津せし旨にて(附添来りし)外国

同心館、政蔵(雅三)来る□四、ら

並翻訳雇来助も乗組来りし旨也、一面の上吉郎方へ遣す、上山(清)来り杯中物の紹介あり試に

一小器

贈り越す、前書祭礼雑沓中、且旅館の役も出来兼候間、多吉考へにてシール儀、舁にて

明日坂地へ廻し候

積り取斗すべて附添雅三へ申談候、同人より御用状届(シール約書其外、右に付建白書類一綴)

加州より三通(前同事、重に申越)宅状(才輔へ元金より右宅状式通)

嘉山(宍)町田(耕)より□中書届く

廿日子 晴雲午下陰黄昏雨

昨同様、御場所休日、湊川付き海岸□挽、前嶋来長鯨丸より上陸着届に来り面す、滝沢(嘉)崎

地 ■■

の旨兵庫より過日の返書を兼一書差越、塚原(但)よりの雁書飛書、坂地より入札人七名廻り来る、

生田

P8310709 left

袂衣適躰転凄涼 可識家々織績□ 満畝綿花白如雪 紡車聲裡送斜陽

祭礼当日也として、住僧より鯛さしみを贈らる

廿一日丑 陰午後雨

(昨同様)御場所休日、昨着せし入札人共呼出し支配向より仕様帳相渡す、御代官方立合御勘定方

談合無し、午下より山

手路筋一見に出る、雨降半途にて帰る

廿二日寅 雨終日

雨天休職、西国筋古往還見分濟、松野(鉄)御代官手代兩人(荒川、多久)など来り面す、本日坂地へ

出立の旨也

廿三日卯 雨終日

雨天休職、江府へ御用状(シールの義返書)加州(江連)、但州(塚原)二書□何も返書也)宅状

(小品廻し方の義添書)差立る、過日の

謝として清七方へ鰻一重遣す、多吉来る一杯を勧む、住僧へ一壇酒を贈る

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。